

令和3年度（令和2年度対象）

# 教育委員会事務事業の点検評価

## 報 告 書

令和3年11月

小平町教育委員会

はじめに

## 1. 点検評価の趣旨

本町教育委員会では、小平町の将来を担う人づくりのため、第6次小平町総合計画第3編第2章で個々の人生を豊かにすることを目指し、学ぶ力と生きる力を育む教育を実践するための具体的な計画を列記しております。

また、小平町の教育の基本理念である、「ふるさとを愛し、ふるさとを拓く、心豊かな人を育む小平の教育」を目指し、「小平町教育振興計画」に基づき、地域における教育の実情と課題を踏まえ、家庭・地域・学校・幼稚園が相互に連携を図り、園児、児童、生徒の学力、体力の向上にむけた事業を推進していくこととしています。

こうした取り組みを進めるにあたって、各施策・事業が着実に実施されているか、効果的に行われているかなどを点検・評価していくことが必要であると考え、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、「教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検・評価」に取り組んでいます。

そのため、本町教育委員会といたしましても法の趣旨に則り、町民の皆様からなお一層のご理解とご協力をいただく中で、今後の効果的な教育行政の推進に資するために、令和2年度の教育委員会実施事業事務の点検・評価を行い、このたび報告するものであります。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止として臨時休校、分散登校を実施しながら、児童生徒の健康を守り、学習状況に遅れがでないよう対応してまいりました。また、社会教育事業も感染拡大防止のため事業の中止、延期等がありましたが、感染防止策を講じたうえで対応してまいりました。

## 2 点検評価の実施方法

点検及び評価対象とする事務事業は、小平町新総合計画に記載されている教育関連の施策体系に基づきながら主要事業で重要な課題に係るものの20項目79事業に対して点検・評価を行なっています。

ただし、社会教育事業については、小平町第7次社会教育中期計画による分類とし、令和2年度小平町社会教育推進計画事業実施報告の各事業を点検及び評価の対象と設定しております。

# — 目 次 —

## □ 令和2年度事務事業点検評価結果

「小平の未来を拓く人材の育成」	5
◎ 教育委員会活動	5
○教育委員会運営	5
◎ 幼児教育の充実	5
○幼稚園運営	5
○幼稚園教育振興	6
○子育て支援対策との連携事業	6
○開かれた幼稚園づくり	6
◎ 小・中学校教育の充実	7
○小・中学校運営	7
○小・中学校教育振興	8
○就学援助対策	8
○ALT配置事業	8
○特別支援教育の充実	9
「豊かな心と健やかな体の育成」	10
◎ 健やかな体の育成	10
○健康安全対策	10
○食育教育推進	11
○共同調理場運営	12

「魅力ある学校づくりの推進」	13
◎ 学校経営の充実	13
○学校間連携の強化	13
○学校施設・設備の充実	13
○スクールバス運行管理事業	14
◎ 教職員の資質・能力の向上	14
○教職員研修の充実	14
○教員住環境整備	15
「地域全体で学びを支える体制づくり」	15
◎ 開かれた学校づくりの推進	15
○開かれた学校づくり	15
「町内外に出会いの輪を広げ、おびらの未来を担う志を持った 人や生涯にわたり活躍する人の育成」	16
◎ 幼児教育の充実	16
●子育て相談の担い手の発掘と活用	16
●子育て中の親子や幼児の交流、 体験の場の充実	16
○子育てサロン	16
○うちの子一番クラブ	16
○子育てサポーター	16
○幼児陶芸教室	16

◎ 少年教育		◎ 成人教育	1 9
●地域のつながりを活かし多様で豊かな 学習と体験活動の推進	1 7	●生涯学習ボランティアバンク登録の促進	1 9
●コミュニティースクールと両輪となる 地域学校協働本部の推進	1 7	●町民の学びを活かした活動の支援	1 9
○おびらっ子クラブ	1 7	○生涯学習ボランティアバンク	1 9
○学社融合事業「化石発掘体験」	1 7	○生涯学習セミナー	
○子ども書初め大会	1 7	(町 PTA 研究大会と連携)	1 9
○小平町子ども下の句カルタ大会	1 7	○転入者向け情報チラシ	1 9
○姉妹都市少年少女交流事業	1 7	○おびらふるさと塾	1 9
○少年の主張	1 8	○英会話教室	1 9
○地域学校協働本部	1 8	○おびら未来塾	1 9
◎ 家庭教育	1 8	◎ 女性教育	2 0
●あいさつや基本的な生活習慣の 大切さの理解促進	1 8	●女性の視点から地域課題に対する 取り組み、学習の支援	2 0
●町内子育て支援関係者の活動支援	1 8	○小平町婦人会議	2 0
○あいさつ運動	1 8	○美味しい地物に感謝祭(後援事業)	2 0
○早寝早起き朝ごはん運動	1 8	○女性レクリエーション交流会	2 0
○子育て支援ネットワーク会議	1 8	◎ 高齢者教育	2 0
○子育て応援イベント支援事業	1 8	●高齢者が活躍できる場の設定と 児童生徒や若者と交流する場の設定	2 0
◎ 青年教育	1 9	○世代間交流事業	2 0
●青年同志のつながりや地域とのかかわり を深める機会の充実	1 9	「ふるさとに誇りと愛着をもつ人材の育成」	2 1
●青年たちのリーダーシップやチャレンジ 精神を育てる取り組みの推進	1 9	◎ 文化財	2 1
●新たな成人式のあり方の検討・実施	1 9	●郷土の歴史や文化の伝承の推進	2 1
○成人式・成人のつどい	1 9	●文化財や化石の教育普及事業の推進	2 1
○担い手育成事業	1 9	●新たな文化財の発掘や指定文化財化を 含めた適切な保護の検討	2 1
		○練番屋まつり	2 1

○文化財をめぐる諸計画の策定	2 1	○舞台芸術鑑賞事業(サポーターズクラブ)	2 4
○文化財・史跡の保護及び郷土資料の収集	2 1	○幼児芸術鑑賞事業	2 4
○郷土芸能の伝承活動	2 1	○児童生徒鑑賞事業	2 4
○古生物化石の収集保存	2 2		
○化石や文化財に親しむ事業	2 2		
「オンリーワンの才能を磨くとともに芸術文化を生活の一部として楽しむ豊かな感性を持った人材の育成」	2 2	「子どもから高齢者まで性別や障がいの有無に関係なく 一生涯スポーツを親しむ人材の育成」	2 5
◎ 図書室	2 2	◎ スポーツ (幼児・少年・青年)	2 5
● 読書環境の充実	2 2	● スポーツの基礎基本の習得	2 5
● 町民が生涯にわたり読書活動を行えるよう支援	2 2	● 自己の記録に挑戦する意欲の養成	2 5
○図書環境の整備	2 2	● スポーツ少年団活動の推進	2 5
○子ども読書活動推進計画	2 2	○子ども向けスポーツ教室の実施	2 5
○ブックスタート	2 2	○スポーツ少年団の育成	2 5
○絵本の読み聞かせ・おはなし会	2 3	○小学生スキー大会	2 5
○児童・生徒が図書に親しむ事業	2 3	○海洋スポーツ奨励事業	2 5
○読書感想文コンクール	2 3	○B & G スポーツ大会 (剣道の部・水上の部)	2 5
◎ 文化活動	2 3	◎ スポーツ (全年齢)	2 6
● 芸術文化に親しみながら文化団体の活動支援	2 3	● 全町民がスポーツ活動を楽しめる環境の整備	2 6
● 文化団体の新しい担い手づくりの活動支援	2 3	○かろやかクラブ	2 6
○小平町文化協会事業	2 3	○ウォーキング教室	2 6
○町民文化祭(舞台・展示)	2 3	○ボルダリング教室	2 6
○児童生徒作品展	2 4	○町民健康マラソン大会	2 6
○町民俳句大会	2 4	○B & G 杯各種大会	2 6
○登り窯・陶工房活用事業	2 4	○小平町体育協会事業	2 7
◎ 舞台芸術	2 4	○小平町民スキーフェスティバル	2 7
● 舞台芸術鑑賞の機会の充実を図る	2 4	○指導者の養成	2 7
		※ 資 料	2 8 ~ 3 2

# 点 検 評 価 結 果

令和2年度 事務事業点検評価結果

(所管：管理課総務係・学校教育係)

施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
小平の未来を拓く人材の育成	教育委員会活動	教育委員会運営	<p>★教育委員会は、政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、町長と教育委員会の連携強化が求められており、町長からは独立した執行機関として、設置されている。教育長及び委員は町長が議会の同意を得て任命される。</p>	<p>□委員活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会 8回</li> <li>・学校行事～年間 20回</li> <li>・教育行事～年間 42回</li> <li>・地域行事～年間 2回</li> </ul> <p>■社会情勢の影響を受けやすい教育環境の状況を常に把握し、委員会として教育政策論議の活性化を図ることが求められており、積極的に学校行事に参加し教育関係施設及び学校運営の実情等現状把握を積極的に確保していきたい。</p>	委員会活動のより一層の活性化を図る
	幼児教育の充実	幼稚園運営	<p>★町立幼稚園は小平・鬼鹿の2園が設置され、満3歳以上の66名の園児が就学前の団体生活や他人との協調意識を学ぶ場として、機能している。</p> <p>☆施設については、小平が平成12年、鬼鹿が平成2年に改築されている。</p>	<p>□園児数は少子化の影響を受け、年々減少傾向であるが、その設置目的に添った指導ができており、小学校へ入学後も協調姿勢や授業姿勢等において、各小学校から評価を得ている。</p> <p>□令和2年度は、コロナ禍であったため、幼稚園教育に制約があったが、保護者と連携もあり、健全な運営が行われている。</p> <p>■保護者・地域の幼稚園に対するニーズも多様化しており、保育手法の改善を要する。</p>	幼稚園教育のあり方を再点検及び職員の配置体制などを再検討し運営継続

施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
		幼稚園教育振興	<p>★幼稚園教育は、遊び保育を主体として集団・社会性の習得化や時間のルール化などの教育を行っているが、地域内の人や資源を活用しての自然・社会体験型の学習も多くなってきている。また、学校同様給食も提供しており、決まった給食時間での摂食や給食当番などを通して、食べることの意義も教えられる。</p>	<p>□預かり保育の運用拡大等により、保護者からは信頼を受けており、今後の学校教育上での成長指導のステップを担う立場として、着実な指導を行っている。</p> <p>■今後も、保護者ニーズの把握に努めながら、幼稚園振興を図ることが重要である。</p>	継続
		子育て支援対策との連携事業	<p>★地域全体で子育てを支援するため、平成23年度より保育施設を鬼鹿幼稚園に併設し、満1歳から就学までの安全・安心な育児環境を提供している。また27年度から、幼稚園及びこども園の保育料等を無償化し、また、令和元年10月から預かり保育料と給食副食費も無料化している。</p>	<p>□3歳未満児の保育施設を整備することにより、鬼鹿幼稚園と一体となった安全・安心な乳幼児保育事業を実施することができた。</p> <p>■保育施設は、地域にとって必要な施設であるので、活用促進が課題である。</p>	保護者意向を反映しながら運営継続
		開かれた幼稚園づくり	<p>★幼稚園評議員制度</p> <p>幼稚園運営に関した地域外部意見を求めるため、小平・鬼鹿幼稚園地域内の有識者を幼稚園評議委員として委嘱し、意見を聞く機会を設けることとし、評議委員会を開催した。</p>	<p>□評議員制度は地区内意見の集約とともに、幼稚園の外部評価にもつながり、運営改善に大変寄与している。</p> <p>■評議員会の複数回の開催が課題である。</p>	継続して有効に作用するよう努める



施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
	小・中学校教育の充実	小・中学校運営	<p>★町立小学校は、小平・鬼鹿の2校が設置され、町内 116 名の児童、中学校は 51 名の生徒が通学しており、それぞれが地域の特性を生かした教育を展開している。</p> <p>★小平小・中学校は、統廃合により小学校が、小平～臼谷・本郷・折真布・寧楽・住吉・達布・大楸を通学区域とし、中学校が小学校通学区に鬼鹿地域を加え、スクールバスにより通学は確保されており、少年団活動や部活動にも支障のない対応となっている。</p> <p>★鬼鹿小学校は、鬼鹿地域を通学区域としており、地域とともに子どもを育てる環境のもとに、様々な学習素材を活用した教育が実践されている。特に複式学校としての特色を生かした、活動を実施している。</p>	<p>□町内小・中学校は、それぞれの地域並びに校下保護者と密着した運営や故郷学習などの授業展開を行っており、児童・生徒の安全管理やいじめ・不登校対策にもしっかりした校内体制により進めている。</p> <p>□校下児童・生徒通学路の安全確保や不審者等対策として、日中の施錠管理など行い、万全を期している。</p> <p>■鬼鹿小学校は児童の減少に伴い、少年団活動の単独構成が困難となり、小平小学校と共同で活動しているが、今後尚一層連携した取り組みができるような支援が必要とされる。</p> <p>□鬼鹿中学校は統合に伴い小平中学校への通学となっているが、問題なく対応している。</p>	町内各学校が連携を強化して運営がなされるよう支援

施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
		小・中学校教育振興	<p>★各学校において、GIGA スクール構想による1人1台端末を児童・生徒・教師200台の導入と校内ネットワークの整備を行った。</p> <p>R2 経費 端末整備～15,620千円 ネットワーク構築～小学校 17,765千円 中学校 9,515千円</p>	<p>□端末を導入したので、有効な活用を図ることが求められる。</p> <p>また、児童生徒が活用する際の利用ルールを遵守させる指導もあわせて教育する必要がある。</p> <p>また、授業で実践的な活用をするため継続的に教員研修を行う必要がある。</p>	継続
		就学援助対策	<p>★従来より、低所得層の家庭及び特別支援学級の児童・生徒の保護者に対し、安心して就学できるよう一定経費の公費負担を行っており、生活困窮による未就学児童・生徒が出ないよう努めている。</p> <p>(R2 実績)</p> <p>支援内容 ～給食費・通学用品・学用品等</p> <p>対象保護者数～小14、中13</p> <p>支援額～小1,323千円、中1,581千円</p> <p>要件～特別児童扶養手当受給世帯、町民税所得割非課税世帯、その他低所得世帯等</p>	<p>□就学援助を受ける世帯は年々増加傾向にあるが、学校とも強く連携した中で、町内に未就学児童がないよう万全を期して対応している。</p> <p>■保護者申請により学校長からの提出であるため、申請行為をプライバシー保護の理念に反しないよう慎重を期するとともに、家庭環境を常に把握し、子どもの就学に支障が起きないように配慮していくことが重要である。</p>	継続
		A L T 配置事業	<p>★中学校英語教育の補助として、外国語指導助手を1名配置していたが、小学校で外国語が必須科目になり指導助手を2小学校でも活用している。</p> <p>R2 経費～4,707千円</p>	<p>□A L T の配置により、中学校での英語力は向上しており、小学校でも配置効果は大きい。</p> <p>■小学校における英語学習も、A L T による役割は重要となっており、教員との連携を高めた指導体制の構築が課題である。</p>	継続

施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
		特別支援教育の充実	<p>★知的・情緒・病弱といった多種多様な障がいを持つ児童・生徒が増えてきており、それぞれの態様に適応した教育の取り組みが求められることとなり、これらに対応する体制を整える中、町においても平成19年5月に特別支援連携協議会を設立し、関係機関連携による支援体制を構築してきた。又、特別支援教育支援員を配置し、きめ細かな支援に努めている。</p> <p>「個別の支援計画」を作成する際の一助となる「子どもの成長の記録」を積み重ねていく、子育て支援ファイル「つながーる」を全幼稚園児に配布。</p> <p>R2 支援員配置 8 名 (小平小 3 名、鬼鹿幼 2 名、鬼鹿小、小平幼、小平中各 1 名)</p> <p>R2 特別支援学級 小平小～4 学級 9 名 (知的 4・情緒 3・言語 1・病弱 1) 小平中～3 学級 6 名 (知的 1・情緒 3・言語 2)</p>	<p>□障がいのある子ども達への教育は、個の状態に応じた指導内容が求められており、校内体制の整備が進んだことで、各学校においても確かな支援体制がとられ、在籍児の保護者からも信頼を得た中で進められている。指導にあたっては、普通学級との交流を主体にカリキュラムが構成され、小平高等養護学校コーディネーター等からの指導・助言を得ながら、子どもの成長に向けた学級運営が行われている。</p> <p>■障がいの多様性から、保護者の認識しづらいケースも多々あり、保護者へ障がい態様の認識と個別指導の必要性の理解を得ることが難しい状況もあるため、各保護者への多種多様な障がいの認識と理解を得ることで、家庭での気づきも含め、早期の発見が課題である。</p> <p>■「つながーる」の有効活用を図る観点から、幼稚園保護者への説明会を拡充する必要がある。</p> <p>■支援員の成り手不足により、今後の配置ができない場合があることが懸念される。</p>	内容充実させて継続

施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
豊かな心と 健やかな体 の育成	健やかな体の育成	健康安全対策	<p>★新型コロナウイルス感染症拡大防止のため児童生徒に感染症に対する予防措置と健康教育を実施している。</p> <p>また、国の補助金を活用し、アルコールディスペンサー等を各校に配置した。</p> <p>感染対策用消耗品：2,742千円 感染対策用備品(扇風機、 空気清浄機)：732千円 校内自動水栓等：2,541千円</p>	<p>□新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各校において3密を避ける等、コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルに基づく感染拡大防止対策を実施するとともに、これからも継続する必要がある。</p>	継続
			<p>★児童・生徒の健康管理は設置者の責務であり、年1回の内科及び歯科健診並びに尿検査を実施し、又小・中各1年生には心電図検査と翌年度新入学する児童には就学時健診を実施している。</p> <p>町内で勤務する教職員についても、年1回の総合健診により健康対策を実施している。</p> <p>(R2実績：1,090千円)</p>	<p>□児童・生徒の健康安全管理は、設置者の義務として法に基づき実施している。</p> <p>また、教職員の健康管理も、雇用主としての責任から実施されている。</p> <p>■教職員の健康面での不安が、子ども達に与える影響も大きいことから、健康管理は重要である。</p>	継続
			<p>★各学校には担当学校医の委嘱をしており、校内での健康安全対策上、相談・意見を求められることとしている。</p> <p>(R2実績：746千円)</p>	<p>□各学校では、伝染性疾患の発生時等で指導・助言を得て適宜対応している。</p> <p>■学校保健対策上極めて重要である。</p>	継続

施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
			<p>★児童・生徒が校内において、不慮の事故により怪我等の負傷を負った場合に治療費等の救済を受けるため、日本スポーツ振興センターが取り扱う災害共済制度へ加入している。 (R2実績～156千円)</p>	<p>□学校における不慮の事故等により、負傷することが増えており、保険互助制度として治療費の保護者負担軽減に役立っている。 ■怪我のない学校活動に努める必要があるが、万が一における負傷時に医療費補填できる共済制度は有効である。</p>	<p>内容充実させて継続</p>
		<p>食育教育推進</p>	<p>★学校教育推進上、学習能力の向上に食育教育の重要性が認められ、健康な体が脳の活性化を促すことから、朝食の重要性とともに食育教育が推進されており、給食活動における食の安全教育や地産地消運動を通しての食材本来の美味しさなどを、低学年の頃から覚える必要性から、平成19年度に栄養教諭制度を設け、学校授業としても食育授業時間を確保することとされている。</p> <p>★栄養職員（調理場栄養士兼務）1名が小平小学校に配置され、各学校の要請に応じて指導を行っている。</p>	<p>□平成19年度から栄養教諭が採用配置され、総合学習や給食時間等を活用した食育教育が実施され、子ども達の食や地場産食材に対する認識が変化しており、特に1日3食を中心とした食事が、健康な体と脳を育てる源である意識が芽生えてきた。また、食育推進事業により地域の食に関する意識が高まった。 ■食育教育として確立されたカリキュラムをいかにして、児童生徒に対して継続して教えていくかが課題である。</p>	<p>継続</p>

施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
		共同調理場運営	<p>★小平共同調理場は、昭和 51 年に設置され、平成 4 年度に現施設が移転改築されたものであり、平成 19 年度末をもって、鬼鹿地区学校給食センターを統合し、現在は小平全町内幼稚園・小・中学校への給食提供を行っている。ただし、米飯持参の副食給食であるが、週 2 日はパン・麺による完全給食となっている。給食費は、食材購入費及び調理用原材料費のみを計算し、保護者負担として、各学校経由での納入としている。</p> <p>R2 実績 1 日食数～282 食 年間配食数～56, 754 食 栄養士～1 名 調理員～5 名 配食方法～各学校・幼稚園に配送委託 運営経費</p> <p>施設運営維持～22, 309 千円 (町負担) 食材等費～12, 657 千円 (保護者負担) 地元食材購入費 2, 501 千円</p>	<p>□小平共同調理場は、設立当時から米飯持参の副食給食方式として運営されてきているが、子ども達の栄養管理・健康管理面からもその効用は大きく、就学における保護者負担の軽減の観点からも運営意義は大きい。また、施設の管理や衛生面でも効率化が図られ、安全・安心な給食提供を実施している。</p> <p>■施設の規模が、現在要求されている衛生管理面に対応するには手狭となっているため、慎重な調理手順を要するとともに、食材等の取扱いについては、十分な注意が必要である。また、老朽化に伴う施設及び機械設備の更新も必要である。</p> <p>■地産地消奨励として、地場産品の使用を求められ、購入単価及び供給先の確保面から課題となっていたが、27 年度より学校給食における地元産食材の使用率を高め、美味しい旬の食材を取り入れるため、町一般会計にて地元食材購入費を予算措置している。</p> <p>■平成 30 年度から各幼・小・中において月 1 回程度、地元産米を使用しての米飯給食を実施、好評を得ている。</p>	<p>衛生面重視と地産食材の使用を考慮しながら運営を継続</p> <p>米飯給食の継続</p>
施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性

魅力ある学校づくりの推進	学校経営の充実	学校間連携の強化	<p>★町内各学校長による校長会、教頭による教頭会を教育課題の検討や各学校事情の情報交換並びに町教委指導事項等の確認などを行う経営研究会として組織し、一定の連携した取り組みが安定するよう指導・支援している。</p> <p>R2 経営研究会運営補助～70 千円</p>	<p>□町内学校長並びに教頭が、定例的に協議の場を持ち、学校課題や町課題事項について検討することで、町と学校の連携及び情報の共有化がなされ、適正な学校運営が図られている。</p> <p>■学校間及び教委との連携は重要となるため、活発な協議が期待される。</p>	強化継続
		学校施設・設備の充実	<p>★町内の学校施設は、小平小学校が平成 5 年度、小平中学校が平成 18 年度に、鬼鹿小学校は、平成 29 年度に改修、改築された。平成 30・31 年度に小平中学校校舎外壁を改修した。</p> <p>★施設備品・教育用備品についても、学校要望を基本として必要性・緊急性も考慮しながら教育環境的に支障のないよう年次計画的に充実を図る。</p> <p>★学校図書については、国の定めている蔵書基準により、毎年一定額での蔵書の充実を図り、児童・生徒の読書意欲の向上に努めている。また、各学校においては読解力の向上策とし、朝読書活動に取り組んでいる。</p> <p>R2 実績（備品・図書含む） 小～6,594 千円（内購入図書 368 千円） 中～1,000 千円（内購入図書 149 千円）</p>	<p>□学校施設の補修・修繕に関しては、急を要する箇所から実施している。</p> <p>■活用が見込めない閉校施設については可及的速やかに解体を要する。</p> <p>□学校施設備品及び教育用備品については、毎年計画的に整備が図られており、学習面での支障はない状況となっている。</p> <p>■教育用備品については、学習指導に支障が出ないように整備していかなければならない。</p> <p>□学校図書についても、毎年一定額の購入は図られており、児童・生徒数的には支障のない状況である。</p> <p>■タブレット端末での読書も普及しているが、書籍を手に、読書に親しむ時間を多くするように学校全体として指導をすることが望ましい。</p>	<p>計画的実施</p> <p>計画的実施</p>
施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性

		スクールバス運行管理事業	<p>★学校統合により遠距離通学となった児童・生徒の通学手段及び部活動・少年団等の活動支援として、マイクロバス等によるスクールバスを運行し、遠距離通学での負担軽減を図っている。</p> <p>町所有のスクールバス 4 台は全て民間事業者へ運転業務委託をしており、26 年 10 月より利用しているデマンドバス 2 台とあわせ計 6 台で運行管理を行っている。</p> <p>R2 事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託料 ～ 24,331 千円</li> <li>・維持経費 ～ 976 千円</li> </ul>	<p>□スクールバスは車輛 6 台により各方面別に最長 30 分以内の乗車ルートを設定しており、幼・小・中併せて 72 名が安全に通学している。</p> <p>また、通学以外にも学校事業や部活動、社会教育事業においても、利便性や子ども達の意向を考慮した活用がなされており、有効な運行がなされている。</p> <p>■町内地形上、運行経路が複数あるため、安全管理面や効率的運行に配慮し、使用学校との密なる連携が必要である。</p>	継続
	教職員の資質・能力の向上	教職員研修の充実	<p>★教育研究所事業</p> <p>教職員の研修機会の拡充、町内教育の課題解決、教職員相互の情報交換・共有化を目指し町条例により設置、運営委託され町内全教職員が参加し、教科毎のサークル活動を主体に研修活動を実施している。</p> <p>R2 委託料～660 千円</p>	<p>□研究所は町内教職員が研鑽・研修する場として機能し、学校毎に課題を設定した中で、活発に事例研究などを行っており、小平町の教育進展に大変寄与している。</p> <p>■教職員の減少する中で、サークル構成にも苦慮しているが、教科指導の向上にもつながっており、研究所活動は町教育にとって重要な位置付けとなっている。</p>	教職員研修機会の拡充と指導方法の向上を目指し継続
施策名	推進施策	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性



		教員住環境整備	<p>★教員住宅については、現在 19 戸保有中、16 戸が入居し、令和 2 年度末においては充足率 84.2%となっている。</p> <p>住宅については、計画的な修繕により入居者の環境改善を図っている。</p> <p>R2 実績 ・住宅修繕～ 785 千円</p>	<p>□教職員居住環境の改善は各町村の責務であり、居住者の要望により順次修繕を実施している。</p> <p>■町内教職員の町外からの通勤率が高く、建替が進まない状況である。</p> <p>■鬼鹿中学校閉校に伴い空き家となった教員住宅は、小平中学校教員の住宅として活用しているが、今後は、老朽化が進む中で、入居したくなる住宅への建替や、民間教職員住宅の整備も視野に入れた計画が必要となってくる。</p>	計画的な環境整備の実施
地域全体で学びを支える体制づくり	開かれた学校づくりの推進	開かれた学校づくり	<p>★学校運営協議会制度</p> <p>学校運営に保護者や地域住民の支援・協力を求め、相互の信頼関係を深め、学校運営の改善と児童生徒の健全育成に取り組むもので、各学校に協議会が設置された。</p>	<p>□学校運営協議会制度は、保護者や地域住民の意見をきくことにより、学校運営の改善に大変寄与している。</p> <p>■今後も活発な協議会運営にできるよう努めていく。</p>	今後も継続して設置
			<p>★学校開放事業</p> <p>各校屋体を地域内体育施設として、夜間に無料で住民開放しており、令和 2 年度は 8 団体が延べ 212 回、2,099 人が利用している。</p>	<p>□町内体育施設の補完として、地域スポーツ団体に有効に利用され、町民の体力向上等に寄与している。</p>	今後も継続して実施

令和2年度 事務事業点検評価結果

(所管：社会教育課社会教育係・文化係)

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
町内外に出会いの輪を広げ、おびらの未来を担う志を持った人や生涯にわたり活躍する人の育成	<p>幼児教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における子育て相談の担い手として「子育てサポーター」の発掘と活用に努めます。</li> <li>・子育て中の親子や幼児の交流・体験の場として「子育てサロン」や「うちの子一番クラブ」の改善・充実に努めます。</li> </ul>	子育てサロン	<p>子育てを行なっている保護者が気軽に集える場所を提供し、保護者同士の子育ての情報交換や、子ども相互の交流の場を提供する。</p> <p>小平子育てサロン（主催） ロビー開放 鬼鹿幼児遊びクラブ（連携） 毎週火曜日 (延べ260名)</p>	<p>今年度より文化交流センターロビーに遊具を設置し、いつでもだれでもが利用できるようになり、親子連れや幼児センターが、散歩がてら利用している。</p> <p>今後は、子育て情報や新作絵本の情報などを提供していきたい。</p>	継続
		うちの子一番クラブ	<p>子育てに関する情報提供や、遊びの場の提供を通じて子ども同士の交流を図る。</p> <p>7月（海遊び） 8月（親子陶芸体験） 9月（くだもの狩り） 10月（ハロウィン） 12月（クリスマス会） 2月（おひなさま） 延べ 90名参加</p>	<p>コロナ禍の中、感染対策を施しながら、小平幼児センター・鬼鹿幼児遊びクラブとの連携により実施しており人気の高い事業となっている。</p> <p>新しい事業も検討し、サポーターの支援を得ながら今後も引き続き実施したい。</p>	継続
		子育てサポーター	<p>うちの子一番クラブの運営・指導に当たるとともに、子育て中の親の身近な相談相手として、うちの子一番クラブの機会に随時相談会を実施する。</p> <p>子育てサポーター 鬼鹿1名 小平2名</p>	<p>町の子育て支援環境が整備される一方で、子育てサポーターと成り得る人材の確保が難しくなっている。</p> <p>子育てサポーターの人材発掘をしながら、保護者同士の情報提供を図れる場の提供に努め、子育てサポーターの活用促進に努めたい。</p>	継続
		幼児陶芸教室	<p>陶芸体験を行うことにより、幼児の創造性を養う。</p> <p>7/1 作陶 8/26 絵付 年長対象 18名参加</p>	<p>陶工房の活用事業。陶芸や造形への関心を喚起するため、今後も引き続き実施したい。</p>	継続

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
町内外に出会いの輪を広げ、おびらの未来を担う志を持った人や生涯にわたり活躍する人の育成	少年教育 ・伝統的な学習、地域ならではの学習、ボランティア活動等に特化した体験活動の充実  ・地域と学校の連携・協働を促進するため、コミュニティ・スクールと両輪となる地域学校協働本部の活動を推進します。	おびらっ子クラブ	放課後や週末に学年の違う子どもたちが集まり地域の大人たちと交流しあいながら、様々な体験ができる場を提供する。 内容：7/29 スーパーシャボン玉 15名 9/12 けん玉講習会 17名 10/31 ハロウィン工作教室 13名 12/9・16 書道教室 11名 下の句カルタ 10月から2月 参加者延べ153名	コロナ禍の中でも感染症対策を施しながら予定通り実施することができた。(化石発掘体験は荒天のため中止) 今後も幅広い学年層が参加できるよう実施日の調整に努めるとともに、自然体験や科学教室など子どもたちが魅力を感じる活動を企画していきたい。	継続
		学社融合事業「化石発掘体験」	町内の小・中学校の授業の一環として化石発掘体験を実施することにより、当町から出る化石について深く知るとともに、自然を愛する心や科学する心を育み、自ら考え創造する力を養う。 小学校6年生 7/28 21名 中学校1年生 9/2 16名	小平町ならではの事業であり今後も継続して実施して行きたい。	継続
		子ども書初め大会	町内の小・中学生を対象に「書」を通じて席書に親しみ、参加者同士の交流と、地域文化の振興・青少年の健全育成を図る。 1/7 小学生17名、中学生1名 計18名参加	昨年度より6名も参加者が増えた。今後も書道教室を開催するなど書道の普及をしていきたい。	継続
		小平町子ども下の句カルタ大会	町内の小・中学生が一堂に会し、北海道独特の「下の句カルタ」を通じて、子どもたちのふれあいの場として、参加者同士の交流と親睦を深め、心身ともに健全な青少年の育成を図る。 町内大会 1月16日(土) 小学生8名、中学生2名 計10名参加	今年は留萌南部地区大会や全道大会がコロナ禍で中止となり町内大会の参加者も少なくなりましたが、世代を超えたチーム編成で参加者同士の交流を図ることができた。	継続
		姉妹都市少年少女交流事業	小平町の姉妹都市東京都小平市との相互訪問を通して広い見聞を養うとともに、小平市の子ども達との交流を図る。 中止	今年は小平市へ訪問の予定だったが新型コロナウイルス感染の影響により中止となった。	継続

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
町内外に出会いの輪を広げ、おびらの未来を担う志を持った人や生涯にわたり活躍する人の育成	少年教育	少年の主張	理論的に物事を考える力や、自分の主張を表現する力、広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につけ、人前で発表できる力を育てる。 中止	コロナ禍により中止となった。	継続
		地域学校協働本部	町内の小中学校が、地域の良さを活かした中で学習等を進められるよう、学校運営協議会（CS）と一体的に地域学校協働本部の取り組みを図る。	令和3年度より実施すべく、要綱の作成及び次年度予算へ委員報酬の予算計上を行った。	ボランティア名簿の精査と併せ継続
	家庭教育 ・あいさつや基本的生活習慣の大切さの理解促進  ・町内子育て支援関係者の活動支援	あいさつ運動	社教だよりの中で啓発する学校や各関係団体へ協力を呼びかける	シンボルマークの活用促進に努めたい。 地域との連携を含め、運動を効果的に盛り上げる方法を検討する。	継続
		早寝早起き朝ごはん運動	子どもたちがはつらつとした毎日を送ることができるよう、学校・家庭・地域と連携した「早寝早起き朝ごはん」運動を展開し、子どもたちの生活リズムの向上に取り組む。 ・社教だより内で啓発記事を掲載する。 ・ラジオ体操の奨励 ・生活リズムの見直し支援 など	社教だよりや、社会教育事業等のお知らせ文等に啓発記事を掲載するとともに、各学校（家庭）における生活リズムチェックシートの活用促進に努めた。今後も引き続きあいさつ運動とともに早寝早起き朝ごはん運動の啓発に努める。	継続
		子育て支援ネットワーク会議	子育てサポーター・社会教育担当者、保健師による会議を実施し、事業の打ち合わせやサロン等における子どもや保護者の様子、対応した相談等について情報交換を行う。	コロナ禍で回数は少なかったものの事業実施前に会議を実施した。	継続
		子育て応援イベント支援事業	家庭教育・子育て支援の観点から、子育てサークル等が企画するイベントが円滑に実施できるよう支援する。 おびまるまつり冬の陣「すくすくマーケット」 中止	コロナ禍により実施できなかった	継続

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
町内外に出会いの輪を広げ、おびらの未来を担う志を持った人や生涯にわたり活躍する人の育成	青年教育 ・地域とのかかわりを深める機会の充実  ・チャレンジ精神を育てる取り組みの推進  ・新たな成人式のあり方の検討・実施	成人式・成人のつどい	町在住及び出身者の成人を祝い、成人としての自覚と責任を促すとともに、地域に貢献しようとする意識の高揚を図る。 ・町内の成人や各種団体との協働に努める(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、出席希望があった新成人には記念品や記念ビデオを贈呈した。	継続
		担い手育成事業	持続可能な地域づくりのため、若者が地域課題について話し合う場を設けるなど、社会の変化に対応し、新たなことに挑戦する次代を担うリーダーの育成を図る。 未実施	コロナ禍により実施できなかった。	実施に向け検討
	成人教育 ・生涯学習ボランティアバンクの登録促進  ・「学び」を活かした活動の支援	生涯学習ボランティアバンク	学校や地域のニーズに沿った人材の発掘に努めるとともに、社会教育事業への参加協力を促します。 登録者 54 名	今後、地域学校協働本部での活用も考えながら整備していきたい。	継続
		生涯学習セミナー(町PTA 研究大会と連携)	子育てに関する講演会について、PTA 関係者のみならず地域住民にも広く周知した中で実施することで、地域全体で子育てを行うという意識の向上を図る。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		転入者向け情報チラシ	転入者向けに、文化サークル一覧や子育て支援情報を載せたパンフレットを配布する。	役場及び支所の窓口と連携し、転入者向けパンフレットを手渡している。今後も引き続き実施したい。	継続
		おびらふるさと塾	地方創生の時代に、その土地にしかないものを活かす地域おこしを実現するため、地域にあって気づくことが少ない地域の魅力に気づく機会を提供することで、地域に対する愛着と誇りをはぐくみ、あわせて地域資源の活用を考える学びの機会とする。 年 3 回実施	コロナ禍により実施できない会もあり、また参加者が固定化しており、参加者数も伸び悩んでいる。今後は幅広い年齢層から更に多くの参加者を得られるよう内容の充実を図るとともに、PR を強化していきたい。	継続
		英会話教室	外国語指導助手による英会話教室を受講生のレベルを考慮した形で定期的を開催する。 週 1 回 木曜日に実施	受講生は少ないものの、予定通り実施した。	継続
		おびら未来塾	時々刻々と変化する現代社会において、新しい時代にあった学び、生活に役立つ学びの場を提供する。 未実施	コロナ禍により実施できなかった。	実施に向け検討

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
町内外に出会いの輪を広げ、おびらの未来を担う志を持った人や生涯にわたり活躍する人の育成	女性教育 ・女性の視点から地域課題に対する取組み、学習の支援	小平町婦人会議	年間を通して活動を行ない、交流、親睦を深め、より良い家庭や地域づくりを進めるため、女性の役割について認識を深める。 16団体 363名 (R2.4現在)	コロナ禍により各事業を実施できなかった。	継続
		美味しい地物に感謝祭 (後援事業)	地域食材や郷土料理を味わい、町民が交流する場を提供するため、小平町婦人会議と青年団体が協働で実施する。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		女性レクリエーション交流会	町内女性が一堂に会し、スポーツレクリエーションを通して交流と親睦を深め、女性活動の輪を広げることを目的とする。中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
	高齢者教育 ・高齢者と児童生徒、若者が交流する場の設定	世代間交流事業	さまざまな事業の中で高齢者と児童生徒、若者がかかわりをもてる場の設定に努めます。	高齢者がおびらっ子クラブのけん玉講習会への参加や、ノルディックウォーキングを鬼鹿地区の高齢者対象で実施することができた。	継続

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
ふるさとに誇りと愛着をもつ人の育成	文化財 ・郷土の歴史や文化の伝承の推進  ・文化財や化石の教育普及事業の推進  ・新たな文化財の発掘や指定文化財化を含めた適切な保護の検討	練番屋まつり	かつて鯨で栄えた昔日の栄華を今日に伝える国の重要文化財「旧花田家番屋」を中心に祭りを行ない、郷土の芸能や生活文化を伝える機会とする。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		文化財をめぐる諸計画の策定	旧花田家番屋の耐震化など大規模な改修を実施するため、保存活用計画を策定する。 6月～3月 策定委員会4回、活用部会1回実施	策定委員会4回及び活用部会1回を経て無事策定することができた。これをもとに向後10年間で耐震診断、保存修理、展示替え等を実施する。	継続
		文化財の保護・活用及び郷土資料の収集	町内外の諸機関や有識者と連携し、町内の貴重な文化財の発掘・資料整理、地域への周知に努める。 ・文化財指定の推進 ・番屋の耐震化、屋根の吹き替え ・外国人対応を含め番屋をガイドする体制の整備と集客数を増やす方策の検討。 ・番屋防災協力会の人材養成・発掘 新会員2名 ※高砂遺跡焼失住居展示施設外構工事 9月完成	高砂遺跡焼失住居展示施設については、窓の反射により中が見にくいので照明の照度を上げる修理をしたい。 番屋防災協力会に2名の新会員を入れることができた。	継続
		郷土芸能の伝承活動	「鬼鹿松前神楽保存会」や「おびら太鼓麓龍」等の郷土芸能への助成金の情報提供や活動支援を行う。 10月3日(土) 松前神楽合同公演(旧花田家番屋)	10月に旧花田家番屋において松前神楽合同公演を実施した。	継続

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
ふるさとに誇りと愛着をもつ人の育成	文化財 ・郷土の歴史や文化の伝承の推進  ・文化財や化石の教育普及事業の推進  ・新たな文化財の発掘や指定文化財化を含めた適切な保護の検討	古生物化石の収集保存	白亜紀層の達布地区や1000万年前の貝化石を産する富岡地区の小椴子川など貴重な古生物化石産地を有し、貴重な化石については逐次収集をする。 ・地質調査で入林する専門家の活用 ・化石の適切な保存、展示 ・まちづくりや観光資源としての活用を検討	化石ネットワーク会議に参加し、北海道博物館の恐竜展や恐竜カードの作成に協力した。	継続
		化石や文化財に親しむ事業	「郷土の宝」である化石や文化財に対する理解を深めるための体験や学習機会を設けるように努める。	小・中学生対象の化石発掘体験を実施した。 小学校7月28日(火) 中学校9月2日(水)	継続
オンラインの才能を磨くとともに芸術文化を生活の一部として楽しむ豊かな感性をもった人の育成	図書室 ・読書環境の充実  ・町民が生涯にわたり読書活動を行えるよう支援	図書環境の整備	・利用者のニーズを把握し、蔵書の整備や情報提供を行う。 ・図書室の利用を図るために町民文化祭など、人が集まるときに図書室まつりを開催し、図書に親しむ機会を提供する。 ・利用者の登録とカード配布の実施 R2の貸出冊数:7,514冊 利用者数:1,762名	コロナ禍で読み聞かせ会や図書室まつりは実施できなかった。次年度では感染症対策を施しながら実施していきたい。	継続
		子ども読書活動推進計画	子どもが積極的に読書を行う意欲や態度を養い、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、学校や図書室などの関係機関と連携し、子どもの発達段階に応じた読書活動を、家庭・地域・学校において積極的に推進する。第2次計画 平成29年度～令和3年度	令和3年度中に第3次計画を策定したい。	継続
		ブックスタート	乳幼児検診時(9カ月)に図書室職員が赴き、絵本1冊を渡し、読み聞かせや、子育て支援事業についての情報提供を行なう。 年6回実施	コロナ禍により読み聞かせは実施できなかったが、今後、子育てサロンやおはなし会などで読み聞かせを行いフォローしていきたい。	継続



施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
オンラインの才能を磨くとともに芸術文化を生活の一部として楽しむ豊かな感性をもった人の育成	図書室 ・読書環境の充実  ・町民が生涯にわたり読書活動を行えるよう支援	絵本の読み聞かせ・おはなし会	絵本の読み聞かせを行うことにより、絵本や本などの楽しさ素晴らしさを感じてもらう。大人や高齢者を取り込める事業機会の設定に努める。 ・おはなし会 中止 ・うちの子一番クラブでの読み聞かせ 中止 ・小学校での読み聞かせ 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		児童・生徒が図書に親しむ事業 (ブックフェスティバルなど)	多くの子どもが集う学校で、沢山の本にふれる機会を提供し、読書意欲の喚起を促し、本の楽しさや素晴らしさの理解を深める。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		読書感想文コンクール	コンクールを行なうことにより、読書意欲の高揚と読書機会の拡充を図る。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
	文化活動 ・芸術文化に親しみながら、文化団体の活動支援  ・文化団体の新しい担い手づくりの活動支援	小平町文化協会事業	町内の文化団体が集い、町民俳句大会や町民文化祭などの企画運営を行い、町文化の振興を図る。 22団体 220名	コロナ禍により芸能発表会を実施することはできなかったが、ロビー展示会や文化協会表彰をすることができた。	継続
		町民文化祭(舞台・展示)	町内の文化団体及び文化愛好者が一堂に会し、日頃の練習成果の発表、作品の展示を行うなど、文化交流センターを十分に活用し、町民自らが企画から運営、演出まで携わり、自分たちが主役となることのできる舞台を作る。 芸能発表 中止 作品展の代わりにロビー展示会を実施	コロナ禍により芸能発表会を実施することはできなかったが、ロビー展示会や文化協会表彰をすることができた。	継続

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
オンラインの才能を磨くとともに芸術文化を生活の一部として楽しむ豊かな感性をもった人の育成	文化活動 ・芸術文化に親しみながら、文化団体の活動支援  ・文化団体の新しい担い手づくりの活動支援	児童生徒作品展	町民文化祭の時に児童生徒の絵画、書道の展示を行なうことにより、文化に触れる機会の提供を行う。 11月8日(日)～10日(火) 美術56点、書道109点 展示	コロナ禍により作品数は少なかったが予定通り実施することができた。	継続
		町民俳句大会	五・七・五の17文字の中に季節感や感情を表現する俳句を作る体験を通じて、児童生徒及び町民の心豊かな情緒を養い、地域文化の振興を図る。 8月～9月実施 応募数 一般の部23句	コロナ禍で児童生徒の参加はなかったが大人の部のみ実施することができた。	継続
		登り窯・陶工房活用事業	陶工房おびらや登り窯「北創窯」を中心に、陶芸を通した町づくり、町の文化の振興を図る。	コロナ禍により登り窯を中止、また利用者も少なかった。	継続
	舞台芸術 ・生涯にわたる良質な舞台芸術鑑賞の機会を充実させ町の文化の向上に努める	舞台芸術鑑賞事業 (サポーターズクラブ)	文化交流センターで行われる舞台芸術事業について、企画運営を町民自らの手で行い、ホールの活用及び、文化の振興を図る。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		幼児芸術鑑賞事業	人形劇等の鑑賞を通して幼児の創造性と豊かな情操を育む。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		児童生徒鑑賞事業	町内の児童生徒を対象に、生きた舞台芸術を鑑賞させることにより豊かな心を育み、創造性を養い、芸術文化への関心を助長する。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続

(所管：社会教育課社会体育係)

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
子どもから高齢者まで性別や障がいの有無に関係なく、一生涯スポーツを楽しむ人を育てます	◎スポーツ（幼児・少年・青年） ・スポーツの基礎基本の習得  ・自己の記録に挑戦する意欲の養成  ・スポーツ少年団活動の推進と団員の資質向上	子ども向けスポーツ教室の実施	スポーツへの参加意欲を高めるとともに幼児や児童生徒の体力づくりを図るため各種教室を開催する。 ・幼児スポーツ教室 6月26日（金）（鬼鹿幼稚園）・7月6日（月）（小平幼稚園） ・水辺の安全教室 中止 ・キボール教室 10/5、10/19、11/2、11/9、12/14、12/21、1/12・25、2/1 ・キッズスキー教室 1月9日（土）・11日（月・祝）・16日（土） ・スノーボード教室 1月9日（土）・11日（月・祝）・16日（土） ・スノーホッケー教室 中止 ・アルペンスキー教室 中止 ・JACOT 教室 9/28、12/7、3/22	幼児スポーツ教室（6月）、キボール教室、キッズスキー教室、スノーボード教室については検温や手指の消毒等感染防止対策を講じた上で実施。 それ以外の事業についてはコロナ禍により実施できなかった。	継続
		スポーツ少年団の育成	各種スポーツ少年団の活動への支援を行う。・指導員の育成（認定員養成講習会の実施）・各種情報の提供・少年団員の資質向上・研修事業の実施 少年団交流会、少年団スポーツ講習会 中止	各種スポーツ少年団活動についてはそれぞれコロナ感染防止対策を講じた上で実施。ただし、少年団本部事業についてはコロナ禍のため助成事業のみ実施した。	継続
		小学生スキー大会	スキー競技を通じ体力・技術力の向上と町内児童の交流を図ることを目的に大会を開催する。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		海洋スポーツ奨励事業	海洋性スポーツを通じて、青少年の健全育成と体力向上のため、事業を実施する。 全事業中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		B&Gスポーツ大会 剣道の部・水上の部	スポーツを通じて心身の健全育成を図ることを目的として事業に参加した。中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
子どもから高齢者まで性別や障がいの有無に関係なく、一生涯スポーツを楽しむ人を育てます	スポーツ（全年齢） ・子どもから大人まで年齢や障がいの有無に関係なくスポーツ活動を楽しめる環境の整備	かるやかクラブ	軽い運動（有酸素運動）を行うことにより、効果的に体脂肪の減少を図り、参加者に規則正しい適度な身体運動を習慣的に行う大切さを理解してもらうため講座を開催する。 7月～3月 年間10回実施 延べ71名 ストレッチヨガ・ストレッチボール	5月実施分2回についてはコロナ禍により実施を見合わせたが、7月以降10回は検温や換気の実施等感染防止策を講じた上で事業を実施した。	継続
		ウォーキング教室	ウォーキングをすることで体力が付き病気やケガの予防にもつながることで、健康の維持増進を図る。 年4回開催 実施日 5/25、6/15、8/17、10/12	検温やマスクの着用等、感染防止策を講じた上で事業を実施した。	継続
		ボルダリング教室	不安定な場所をバランスをとりながら移動することで、体幹やバランス感覚を鍛え、健康増進と体力向上を図る。 未実施	コロナ禍により実施できなかった。	実施に向け検討
		町民健康マラソン大会	生活の基礎となる健康の増進と体力の向上を図ることを目的に大会を実施する。 中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		B&G杯各種大会	日頃の練習の成果を発表する場として、町民卓球大会・野球大会・少年少女剣道大会・バドミントン大会・ミニバレーボール大会・パークゴルフ大会を開催する。 中止	コロナ禍のため各種スポーツ団体の判断により実施しなかった。	継続

施策名	基本事業名	個別事業名	事業内容	点検・評価と課題	今後の方向性
子どもから 高齢者まで 性別や障が いの有無に 関係なく、 一生涯スポ ーツを楽し む人を育て ます	スポーツ（全年齢） ・子どもから大人まで 年齢や障がいの有無に 関係なくスポーツ活動 を楽しめる環境の整備	小平町体育協会事業	町民の体力の向上並びに小平町のスポーツ 文化の向上を図るため、体育の日スポーツ 大会やスポーツ表彰式を行なうとともに助 成事業を行う。 ・小平 鬼鹿 達布 3支部 ・卓球連盟ほか 10団体 事業はコロナ禍により中止	コロナ禍により各種事業は中止と なったが、助成のみ実施した	継続
		小平町民スキーフェス ティバル	町民に雪と親しむ機会を提供し、冬期間の 運動不足を解消し、相互の交流と親睦を図 り、スキー場の利用を促進するため事業を 実施する。 コロナ禍により中止	コロナ禍により実施できなかった。	継続
		指導者の養成	各種情報提供により、スポーツ技術の向上 と地域スポーツ指導者の養成を図る。	リーダーバンクへの登録・活用と情 報提供及び各団体との連携により 指導者の養成を図りたい	継続

別 添 資 料

## 1. 教育委員会の活動状況（令和2年度）

### 教育委員会議開催状況

- |      |     |            |                    |   |
|------|-----|------------|--------------------|---|
| 令和2年 | 第3回 | 令和2年5月27日  | 議案6件審議 議決 承認9件 承認済 | (学校における働き方改革小平町アクションプランの一部改正・小平町いじめ防止基本方針の策定・旧花田家番屋保存活用計画策定委員会要綱の制定・旧花田家番屋保存活用計画策定委員の選任・旧花田家番屋保存活用計画の諮問・令和2年度小平町教育費補正予算・小平町教育委員会事務局の事務組織規則の一部改正・小平町社会教育委員の選任・小平町文化財審議会委員の選任・小平町スポーツ推進委員の選任・学校運営協議会委員の選任・小平共同調理場学校給食運営委員の選任) |
| 令和2年 | 第4回 | 令和2年7月29日  | 議案2件審議 議決 承認1件 承認済 | (令和3年度から使用する中学校用教科用図書の採択・小平町教育委員会公務補等服務規程の一部改正規定・幼稚園評議員の選任)   |
| 令和2年 | 第5回 | 令和2年9月2日   | 議案1件審議 議決 承認2件 承認済 | (令和2年度小平町教育費補正予算(6月)・令和2年度小平町教育費補正予算(8月臨時会)・令和2年度小平町教育費補正予算(9月))  |
| 令和2年 | 第6回 | 令和2年10月1日  | 報告2件               | (小平町教育委員会委員の任命・小平町教育委員会教育長職務代理者の指名)   |
| 令和2年 | 第7回 | 令和2年11月27日 | 議案6件審議 議決          | (小平町学校管理規則の一部改正規則・教諭等の標準的な職務の内容及びその例並びに教諭等の職務の遂行に関する要綱の制定・事務職員の標準的な職務の内容及びその例並びに事務職員の職務の遂行に関する要綱の制定・小平町特別支援教育支援員設置要綱の一部改正・教育委員会事務事業の点検評価・令和2年度小平町教育費補正予算(12月))  |
| 令和3年 | 第1回 | 令和3年1月22日  | 議案2件審議 議決          | (旧花田家番屋保存活用計画の答申・小平町立学校における教職員のハラスメント防止等に関する指針の策定)  |

令和3年 第2回 令和3年2月26日 議案4件審議 議決  
 (令和2年度小平町教育費補正予算(3月)・令和3年度小平町教育行政執行方針・令和3年度小平町教育費予算・指定管理者の指定・)

令和3年 第3回 令和3年3月29日 議案3件審議 議決  
 (教育財産の用途廃止・令和3年度小平町公立学校教職員人事の内申・令和3年度小平町教育委員会職員の内免)

町内活動状況(主なもの)

内 容	開催日時及び場所
各小・中学校入学式	令和2年4月6日 各校
小平幼稚園入園式	令和2年4月8日 同園
鬼鹿幼稚園入園式	令和2年4月8日 同園
小平高等養護学校入学式	令和2年4月13日 同校
小平中体育大会	令和2年9月12日 同校
鬼鹿地区(幼・小)合同運動会	令和2年9月19日 鬼鹿小
小平小運動会	令和2年9月6日 同校
小平幼運動会	令和2年9月13日 同園
小平町慰霊祭	令和2年8月19日 文化交流センター
小平中学校祭	令和2年10月4日 文化交流センター
体育協会スポーツ賞表彰式	令和2年10月16日 文化交流センター
鬼鹿小学芸会	令和2年11月1日 同校
小平小学習発表会	令和2年10月11日 同校
小平幼発表会	令和2年11月29日 同園
鬼鹿幼発表会	令和2年10月24日 同園
小平町表彰式	令和2年11月3日 文化交流センター
小平中卒業式	令和3年3月13日 同校
小平小卒業式	令和3年3月20日 各校



鬼鹿小卒業式	令和3年3月19日	各校
小平幼稚園卒園式	令和3年3月21日	各園
鬼鹿幼稚園卒園式	令和3年3月21日	各園

教育委員名簿（令和3年3月31日現在）

職 名	氏 名	任 期（通算）
教育長職務代理者	仙石景章	平成20年10月1日～令和6年9月30日
委 員	佐々木康勝	平成22年10月1日～令和4年9月30日
委 員	永井信行	平成24年10月1日～令和6年9月30日
委 員	松本恭子	平成27年10月1日～令和5年9月30日

2 町立学校等設置状況（令和3年3月31日現在）

施設名	学級数		教職員数					園児、児童、生徒数 ( )内は特別支援で内数											
	普通	特別支援	校長・教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員・公務補	計	1～2歳	3歳	4歳	5歳	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	
小平幼稚園	3	-	6	-	-	2	8		18	10	15								48
鬼鹿幼稚園	3	-	3	-	-	1	4		8	3	4								18
鬼鹿こども園	2	-	2	-	-	-	2	11											11
小平小学校	6	4	14	1	1	2	18					15	22 (5)	10 (1)	13 (2)	10	20 (1)	90 (9)	
鬼鹿小学校	4		6	1	-	2	9					6	7	4	3	5	1	26	
小平中学校	3	3	13	1	-	2	16					16 (1)	19 (2)	16 (3)				51 (6)	